２０２３年度　第３回　早慶上理難関国公立大模試　国語　採点基準

一（評論）採点基準（合計＝５０点）

問一　８点

（模範解答例）

Ａ〇２点　　Ｂ〇４点

猪口が砕けたのをきっかけに、なぜ猪口を大切にしてきたのか、これまで秘密にしていた若い頃の思い出を

Ｃ〇２点

妻に話して笑い飛ばそうとした。

■各加点要素の加点の条件

【Ａ・Ｂ・Ｃに関して部分採点を行う。ただし、要素のポイントとなる語はあっても、ポイント前後とのつながりがおかしい表現になっている場合は、得点できない。】

Ａ「猪口が砕けたのをきっかけに」（２点）

〇「猪口が砕けた（・壊した・壊れた・割れた）」という内容が入っていればよい。

Ｂ「なぜ猪口を大切にしてきたのか、これまで秘密にしていた若い頃の思い出を」（４点）

〇 猪口を大切にしてきた理由は「若い頃の思い出・昔の出来事（恋愛・女性への思い）」だということが分かる内容であれば〇。

△単に「入手の経緯（・理由）を」などは△２点。「若い頃の思い出」であることがあって〇。

Ｃ「妻に話して笑い飛ばそうとした」（２点）

〇「笑い飛ばそうとした」要素があって〇。「笑い話にしようとした」でも〇。

△ 心の動きを問うている。「笑い飛ばした。」と、行動になっているものは△１点。

△「すっきりしようとした」「晴れやかになった」程度は△１点。

△「妻に打ち明けようという心境になった。」は△１点。

問二　４点×２＝８点

Ｘ＝ニ　　Ｙ＝ロ（各４点）

問三　５点

イ

問四　4点

ホ

問五　12点

（模範解答例）

A○3点　B○3点　C○3点　D○3点

娘と別れねばならなかった理由を今になって話したとしても、その真偽は不明であり、自分の苦労の適否を誰も判断することはできないため、笑い飛ばすしかないと思ったから。（80字）

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・Dに関して部分採点を行う（A・B・C・）Dそれぞれ単独に採点を行って構わない）】

A「娘と別れねばならなかった理由を今になって話したとしても」（3点）

○「昔のことを今更話しても」というような書き方でも可○とする。

B「その真偽は不明であり」（3点）

○「本当のことかどうかはわからず」「虚言か真実かは不明で」などでも○。

C「自分の苦労の適否を誰も判断することはできないため」（3点）

○「自分の経験した苦しさの善し悪しも判断できず」などで○。

△「苦労について判断できないため」は△1点。（適否（・善し悪し）の要素なし）

D　笑い飛ばすしかないと思ったから…3点

○「笑ってしまうのがよいと思ったから」などで○。

△「仕方がないと思ったから」など、「笑い飛ばす」要素が無いものは△1点。

△「無益なだけであると思ったから」などは△1点。

▲末尾が「から・ので・ため」になっていないもの▲1点減点

問六　8点

（模範解答例）

A○4点　　B○4点

手の込んだ傑作というわけではないが、下手な作家には書けない趣のある作品である。（29字）

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う（A・Bれぞれ単独に採点を行って構わない）】

A「手の込んだ傑作というわけではないが」（4点）

○「突出して素晴らしいわけではないが」「非常に素晴らしい作品というわけではないが」「上手いとまでは言えないが」などで○。

△「さりげないざっくりした描写」など曖昧な場合は△2点

B「下手な作家には書けない趣（味わい）のある作品」（4点）

○「才能がない作家には書けない（違って）心ひかれるよさがある」などでも○。

○「趣（味わい）」は「一味違う」「なんとなく心ひかれる」などでもやや主観的だが可○とする。「非凡な輝きがある」なども可。

✖「趣（味わい）」は「美しさがある」などはあるかどうか疑問なので不可✖。

△「下手な作家（未熟な作家／並み一通りの作家）には書けない作品」、「趣（味わい）のある作品」など、どちらかの要素が抜けている場合は△2点とする。

問七　5点

ハ

二　（評論）採点基準（合計＝５０点）

問一　２点×４＝８点

（解答）　１　摂理　２　機構　３　隆盛　４　隷属

問二　10点

（模範解答例）

A〇１点　B〇３点　C〇３点

技術とは、自然の本質を理解した上で、それを人工的に模倣して、

D〇３点

目的を達成するための手段を製作する営みであるとする見方。（58字）（10点）

■形式上の不備

・文末表現：理由説明の結び「～から」になっている場合は、要素D不可。

・句点の扱い：１点減点

■字数：六〇字以内　二九字以下のものは全体不可（０点）

■各加点要素の加点の条件

A「技術とは」（1点）

✖「技術」についての見方であることを明確にしていないものは要素A加点なし✖０点。

B「自然の本質を理解した上で」（3点）

✖要素C以下の前提として「自然の本質の理解」が必要だということについて説明していないものは、要素B加点なし✖０点。

C「それを人工的に模倣して」（3点）

✖要素Aとは、自然の「人工的な模倣」であることについて説明していないものは、要素C加点なし✖０点。

〇「自然現象を模倣して」など、「人工的」という語が無くても、それとわかる表現は可〇とする。

D「目的を達成するための手段を製作する営みであるとする」（3点）

✖アリストテレスの技術についての定義を説明していないものは、要素D加点なし✖０点。

問三　12点

（模範解答例）

A〇3点　B〇3点

技術を自然の模倣として捉えるとき、　第一に優先されることは自然観察であり、

C〇3点

そこから得られたことを技術として用いるかどうかということは

D〇3点

後から考えることだということ。（80字）（12点）

■形式上の不備

・文末表現：理由説明の結び「～から」になっている場合は、要素D不可。

・句点の扱い：1点減点

■字数：八〇字以内　三九字以下のものは全体不可（0点）

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A「技術を自然の模倣として捉えるとき」（3点）

✖ここでの前提が「技術を自然の模倣として捉える」ということについて説明していないものは要素A加点なし✖0点。

B「第一に優先されることは自然観察であり」（3点）

✖要素Aを受けて、優先されることは「自然観察」であることを説明していないものは要素B加点なし✖0点。

C「そこから得られたことを技術として用いるかどうかということは」（3点）

✖傍線部「おまけ」の内容を「自然観察によって得られた成果を技術に使うこと」であると説明していないものは要素C加点なし✖0点。

✖「自然観察の後に技術の実装がある」「自然観察そのものを後で使うかどうか」などは✖。

D「後から考えることだということ」（3点）

✖傍線部「おまけ」を言い換えていないものは、要素D加点なし✖0点。

〇「副産物だ」「付加的なものだ」などで可〇。

✖「別問題だということ」「無関係に行える」などは✖。

問四　12点

（模範解答例）

A〇3点　B〇3点

自然はありのままに観察しても　解明できるものではないので、

C〇3点

人間が実験という技術によって自然に働きかけ、

D〇3点

その結果を検証し解明しようとする考え方。（70字）（12点）

■形式上の不備

・文末表現：理由説明の結び「～から」になっている場合は、要素D不可。

・句点の扱い：1点減点

■字数：七〇字以内　三四字以下のものは全体不可（0点）

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A「自然はありのままに観察しても」（3点）

✖対比的に示されている「自然ファースト」のあり方について説明していないものは要素A加点なし✖0点。

B「解明できるものではないので」（3点）

✖要素Aの「自然ファースト」では自然のあり方は解明できないということを説明していないものは要素B加点なし✖0点。

C「人間が実験という技術によって自然に働きかけ」（3点）

✖「技術ファースト」のあり方について説明していないものは要素C加点なし✖0点。

D「その結果を検証し解明しようとする考え方」（3点）

✖要素A・Bではできないことを要素Cによって可能にしようとする考えであることを説明していないものは、要素D加点なし✖0点。

問五　2点　2＝4点

（解答）　a　ロ　b　ホ

問六　4点

（解答）　イ

三（古文）採点基準（合計50点）

問一　1点×3＝3点

（解答）a　う　b　つぼね　c　みす

［ポイント］
✖いずれも正解以外は✖。
a ✖「うれ」「うれい」　等
b ✖「きょく」　等
c ✖「みすだれ」「おんすだれ」「おす」　等

問二　3点×3＝9点

（解答）甲　二　乙　イ　丙　ロ

問三　2点×4＝8点

（解答）i　まし　ii　れ　iii　な　iv　※む

※ivは「ん」になっている場合は△1点。

問四　4点×3＝12点

A（解答例）4点

A〇2点
見ただけで書き留めずにそれきりにしてしまうことが

B〇1点
物足りなく

C〇1点
思われたので、

［ポイント］
A「見ただけで書き留めずにそれきりにしてしまうことが」（2点）
※「見てのみやむが」の現代語訳
①「見ただけでそれきりにしてしまうことが・見るだけで終えるのも・見るだけでやめるのは」などの意があれば△1点。
✖「見ただけで」のみは✖。
②右の意がある上で、「書き留めない・書きつけない」などの意もあれば＋1点で〇2点。

B「物足りなく」（1点）
※「飽かず」の現代語訳
〇「飽き足りなく・満足できず・不満に」などでもよい〇。

C「思われたので」（1点）
※「おぼえしかば」の現代語訳
✖「おぼゆ」は「自然と思われる」という自発の意の動詞。「思われる」の意がない場合は✖。「思ったので」などは不可✖。
✖「ので・ため・から」の意がない場合は✖。
○過去（＝～た）の意の有無は不問とする。

B（解答例）4点

A○3点　B○1点
為仲が行ってしまわないうちに付句をしよう」と　よく考えずに、

［ポイント］
A「「為仲が行ってしまわないうちに付句をしよう」と」（3点）
※「行かぬ先に」の現代語訳
①「行かないうちに・立ち去る前に」などの意があれば【1点】。
②①の意がある上で「為仲が」の意もあれば＋1点。
③①の意がある上で「付句をしよう・句を詠もう・連歌をしよう」などの意もあれば＋1点。
「句を詠もう」は「歌を詠もう」でもよしとする。「上の句をつけよう」も○。
○「　」の有無は不問。

B「よく考えずに」（1点）
※「と思ひもあへず」の現代語訳
○「十分考えずに・考えきらないうちに・熟慮せず」などでもよい。
（この「よく考えずに」は、直前の「　」内のことを「よく考えずに」ということではなく、直後の「日影にも」の句を詠むに当たって「よく考えずに」詠んだということである。）
✖単に「考えずに」などは✖。
✖「思って・思わないで・思うことができなくて・思えなくて・思い至らなくて」などは✖。

C（解答例）4点

A○1点　B○1点　C○1点　D○1点
雪が降ると、積もった雪が花のようで、花が咲いていない枝がなく　見えるけれど

［ポイント］
A「雪が降ると」（1点）
※「雪降れば」（已然形＋ば）の現代語訳
○「雪が降るので・雪が降ったために」などでもよい。
✖「雪が降ったならば。雪が降ったら」など、「雪降らば」（未然形＋は）の訳になっているものは×。

B「積もった雪が花のようで」（1点）
※状況説明補い
○「雪が花のようで・雪が花に見えて・雪が白い花のようで」などの意があればよい。

C「花が咲いていない枝がなく」（1点）
※「咲かぬ枝なく」の現代語訳

○「花が咲かない枝がなく・すべての枝に花が咲くように」などの意があればよい。
✖「咲かない枝はなく」は不可✖。「花が」の補い必須。ただし、要素Bの「花」を受けて、「それがすべての枝に咲くように」など、「花が」が読み取れる場合は可○。

D「見えるけれど」（1点）
※「見ゆれども」の現代語訳
○「見えるけれど・見えるが・思われるけれど・感じられるが」などの意があればよい。

問五　6点

（解答例）

A○3点　B○3点

少しでも早く詠むことによって、和歌の出来の悪さを隠そうとして、ということ。（37字）（6点）

■　表記・字数
・字数指定　40字。字数が少ないことによる減点はしない。
・文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
・句読点の有無不問。

［ポイント］

A「少しでも早く詠むことによって」（3点）
○「早く詠もうとした・早く詠んだ・早く詠む・詠む早さで」などの意があればよい○。
○「早く返歌することで」なども○。
○「すこしでも・歌を」などの意の有無は不問。

B「和歌の出来の悪さを隠そうとして、ということ」（3点）
○「和歌の出来の悪さを隠そうとした・歌の質の低さをごまかそうとした」の意があればよい。
○「出来」は「質・完成度」などでもよい。
○「悪さ」は「低さ・自信のなさ」などでもよい。
○「隠そうとした」は「ごまかそうとした・言い訳にしようとした」などでもよい。
○「隠す（ごまかす・言い訳にする）」に相当する表現がなく、「歌の出来が悪いと思われないように・歌の出来の悪さを批判（指摘）されないように・歌の出来の悪さがばれないように」、または、「歌の出来が悪いと思われてもよいように・歌の出来の悪さを批判（指摘）されてもよいように・・歌の出来の悪さがばれてもよいように」などとなっていてもよしとする。
▲「和歌の」が明らかでない「出来の悪さを隠そうとした」などは、▲マイナス1点。
▲「悪さを」が明らかでない「和歌の出来を隠そうとした」などは▲マイナス1点。
✖「和歌の出来の悪さを」が明らかでない「恥ずかしさを隠そうとした・歌を詠む遅さをごまかそうとした」などは×。

問六　8点

（解答例）

A○4点

下の句の「豊の明り」に対して、「豊明節会」で冠に飾られる「ひかげのかづら」を連想させる

B○4点

「日影」を詠み、また、下の句の「月」に対して、「日」を詠んでいる点。（77字）（8点）

■　表記・字数

・字数指定　80字。字数が少ないことによる減点はしない。

・文末表現指定なし。模範解答に準ずる。

・句読点の有無不問。

［ポイント］

※「下の句」は「下句・前句・前の句・為中の句・為仲が詠んだ句・豊明節会の月を詠んだ句」などでもよい。

※「豊の明り」は「豊の明かり・豊明・豊明節会」などでもよい。

※各句からの引用箇所の「　」の有無は不問。

A「下の句の「豊の明り」に対して、「豊明節会」で冠に飾られる「ひかげのかづら」を連想させる「日影」を詠み」（4点）

①「「豊の明り」に対して「日影」を詠んでいる」という説明があれば【2点】。

② 右の①の意がある上で「豊の明り」→「日影」という発想（連想）に「ひかげのかづら」が関わっているという説明があれば＋1点で【3点】

③ 右の②にさらに、その「ひかげのかづら」が「豊明節会」で飾られる（用いられる）ものだという説明があれば＋1点で【4点】。

B「また、下の句の「月」に対して、「日」を詠んでいる点。」（4点）

○「「月」に対して「日（日影）」を詠んでいる」という説明があればよい。

問七　4点

（解答）　二

四　漢文　50点

問一　2点×4＝8点

（解答）a　つぶさに　b　ついに

c　もうす　d　より

［採点のポイント］

▲歴史的仮名遣いの場合は、▲減点1点。

例　b「つひに」c「まうす」

✖送り仮名の不足は0点。

✖d「よりて」は不可✖。

問二　4点×2＝8点

A　4点

（解答例）　あなたは　どうやって　ここに来ることが　できた　のですか（4点）

A前半　B○1点　C○1点　A○2点

［採点のポイント］

※「あなたは」は不問。

※丁寧表現は不問。

A「どうやって～のですか」（2点）

○手段を問う疑問文になっていれば○。

✖「なぜ～」は不可✖。

B「ここに来ることが」（1点）

○「ここ」は具体化せずに「ここ」で可。

もし、具体化した場合は、「神仙界」「蓬莱山」などであること。

C「できた」（1点）

○可能表現であれば○。

B　4点

（解答例）　ぜひとも　神仙界の長に　お目にかかる　必要がある（4点）

A○1点　B○1点　C○2点

［採点のポイント］
＊主体「あなたは」は不問。
＊「ぜひとも」は不問。
＊丁寧表現は不問。

A「神仙界の長に」（1点）
○「神仙界の長」は具体化せずに「天師」のままでも可。
もし、具体化した場合は、「神仙界」「蓬莱山」など。

B「お目にかかる」（1点）
○「お目にかかる」は「拝謁する」「謁見する」「まみえる」などで○。
✖敬語なし「会う」は不可✖。

C「必要がある」（2点）
○「必要である」「しなくてはいけない」などで○。
△「べきだ」は△1点。

問三　5点

（解答）　遣下左　右　引二於　宮　内一遊　観上

※完答のみ

問四　5点

（解答）　いまだ　きたら　ざる　のみ　（と）

［採点のポイント］
▲「きたら」をカ変動詞「こ」とするものは▲減点2点。
○引用の「と」は不問。
✖漢字を用いたものは✖0点。

○採点例
▲2点減点
1　いまだ　こ　ざる　のみ（3点）

問五　3点＋3点＋3点＋6点＝15点

（i）3点

（解答）　七言絶句（3点）

（ⅱ）3点

（解答）白楽天院（3点）

✖誤字は0点。

（ⅲ）3点

（解答）来（3点）

✖誤字は0点。

（ⅳ）6点

（解答例）自分は仏教を学んでいるが、神仙は学んでいないので　A○1点　B○1点　C○1点

あなたが旅の商人から聞いた話は　D○1点　嘘であろう。　E○2点

私が死後に行く先は　蓬莱山でなく兜率天に違いない。（68字）（6点）

［採点のポイント］

A「自分は仏教を学んでいるが神仙は学んでいないので」（1点）

○「自分」は「白公」「白楽天」「白居易」など可○。

○「仏教」は「仏門」も可○。

○「神仙」は「道教」も可○。

B「あなたが旅の商人から聞いた話は」（1点）

○「あなた」は「李公」も可○。

○「旅の商人から」は無くとも可。

C「嘘であろう」（1点）

○「嘘」は「間違い」も可○。

D「私が死後に行く先は」（1点）

✖「死後」がない場合は✖0点

E「蓬莱山でなく兜率天に違いない」（2点）

△「蓬莱山でなく」がない場合は▲1点。

✖「海山」のままは不可✖。

問六　7点

A○2点　B○2点

（解答例）　俗世間を逃れて　役人を辞めていることから、

C○3点

神仙の世界にふさわしい人物であると　判断している。（7点）

［採点のポイント］

A「俗世間を逃れて」（2点）

○「俗世」は「現実」「世の中」なども可。

B「役人を辞めていることから」（2点）

○「高い地位を捨て」なども可。

C「神仙の世界にふさわしい人物である」（3点）

○「神仙界から人界に流された人物」なども可。

問七　2点

（解答）　長恨歌

※誤字等不可✖。（例）「長限歌」「長恨詩」